
滝紋学園 ～ふぁうすと～

出夢

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

滝紋学園 ～ふぁうすと～

【Nコード】

N4033C

【作者名】

出夢

【あらすじ】

秘密の過去をもつ中学生く吉田水樹く（ ）は、滝紋学園へ交流生徒になる！しかし、その滝紋学園とんでもない秘密が。恋愛なのかコメディーか、わくわくをお届けする滝紋学園。ぜひ、ご賞味あれ。

第零章 - 始まりは唐突で-

17:47。僕は友達の家^{よしだ みずき}にいた。僕の名前は、吉田水樹〔14〕
職業 中2。

本来この時間は、部活「ソフトテニス」があるのだが、今日は雨のためお休みだ。なので、放課後暇になった僕は友達の家^{よしだ みずき}に、学校から直接遊びに来ているのである。しかし、そろそろ帰らないと小雨の雨が強くなりそうなので、友達^{よしだ みずき}の「柳葉精一」>（やなぎば せいいち）に、帰るよ、と言い残して荷物を持ち立ち上がる。精一は、ゲームの画面から目を離しこつちを向いて。

「んじゃ、また明日」
、と言った。

合羽は着なくてもいいだろう。今の雨の状況は、小雨程度でここから家まで問題ないだろう。

南に黒い雲があるのを見ると、これから強くなってくるだろう。チャリにまたがり、ペダルをこぎ始める。すぐに、大きな通りに出た。このまま2つ目の信号を右に曲がり、突き当たりの公園を左に曲がれば我が家だ。2つ目の信号を、右に曲がる。公園に来たところで、違和感を感じる。別にこれといって、変わったところはない。ただ、公園のベンチに人が横たわっていた。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n4033c/>

滝紋学園 ～ふぁうすと～

2010年10月9日23時53分発行